目指せ！データサイエンティスト

20 漁業編

滋賀大学の 飯山 将晃先生の 解説

今回は漁業に関するデータサイエンスの活用について紹介します

漁で捕れる魚の量は、その日の海の状況や天気、漁をする場所によって大きく変わるため、安定した量を得るのは意外と難しいのです。そこでデータサイエンスで漁師さんたちのお手伝いをする研究が行われています。

魚がいそうな場所を海のデータからAIで探す！

漁が上手な人は海の状況とこれまでの経験や勘を元に魚が多く集まる場所を見つけています。同じようにAIで予測するためには、AIに魚が捕れやすい状況と捕れにくい状況を学習させる必要があります。海の状況は海水の温度や海流などのデータとして集められます。また漁師さんに協力してもらい、大漁時の魚の量とそのときの海の状況のデータも集めることができます。これらのデータをAIに学習させることで、今の海の状況から魚が捕れそうな場所を予想することができるのです。

データサイエンスとは？

大量の情報やデータを分析して役に立つ情報を得たり、将来の予測を立てたりする研究のことです。

監修：飯山 将晃（滋賀大学データサイエンス学部教授）
制作：滋賀大学データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター、近江テック・アカデミー　マンガ：岡本 圭一郎

魚の場所予測、ＡＩで無駄なく

おしえて先生！

飯山先生

みらい（小学5年生）広い海で魚がいる場所を見つけるのってむずかしそう。

飯山先生　そうなんだ。昔は、ベテランの漁師さんが「ここに魚がいるはずだ」って、自分の経験や勘を頼りに魚をさがしていたんだ。でも、わかい漁師さんにはむずかしくて、せっかく船で出ても、魚がぜんぜんいなかったなんてこともあったんだよ。

みらい　じゃあ、AIはどうして魚がいる場所を知ってるの？

飯山先生　AIはね、今までに魚がたくさんとれた「時間」や「場所」、そのときの「水のあたたかさ」や「海の流れ」など、十数年分ものデータをぜんぶ覚えているんだ。そのデータをもとに、「今日はこのへんに魚がたくさんいそうだよ」って教えてくれるんだよ。

みらい　すごい！　それってどのくらい当たるの？

飯山先生　ベテランの漁師さんと同じくらいは当たるって言われてるんだ。AIや新しい技術を使った漁は、「スマート漁業」って呼ばれているよ。わかい人でも無駄なく魚が捕れるから、これからの時代にぴったりなんだ。

（構成・編集部）

京都新聞社 The Kyoto Shimbun Co.,Ltd.
©京都新聞社　無断複製・転載を禁じます